

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月1日
【四半期会計期間】	第120期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	富士通株式会社
【英訳名】	FUJITSU LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 時田 隆仁
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号 （上記は登記上の本店所在地であり、本社業務は下記「最寄りの連絡場所」 において行っております。）
【電話番号】	044（777）1111（代表）
【事務連絡者氏名】	法務・知財・内部統制推進本部 コーポレートガバナンス法務部 マネージャー 桐野 哲平
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目5番2号（汐留シティセンター）
【電話番号】	03（6252）2220（代表）
【事務連絡者氏名】	法務・知財・内部統制推進本部 コーポレートガバナンス法務部 マネージャー 桐野 哲平
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第119期 第2四半期 連結累計期間	第120期 第2四半期 連結累計期間	第119期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	1,834,544 (966,887)	1,828,763 (990,026)	3,952,437
営業利益 (百万円)	95,275	71,060	130,227
税引前四半期利益又は税引前利益 (百万円)	117,211	80,805	161,785
四半期(当期)利益 (百万円)	86,134	61,949	110,718
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	81,131 (8,375)	63,659 (56,565)	104,562
四半期(当期)包括利益 (百万円)	106,966	51,568	95,511
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	101,523	54,116	89,311
資本合計 (百万円)	1,287,846	1,287,075	1,253,630
資産合計 (百万円)	3,078,247	3,112,827	3,104,842
親会社の所有者に帰属する 基本的1株当たり四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	396.46 (40.97)	314.08 (279.08)	512.50
親会社の所有者に帰属する 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益 (円)	396.36	314.00	512.33
親会社の所有者に帰属する持分合計 (百万円)	1,166,913	1,170,096	1,132,055
親会社所有者帰属持分比率 (%)	37.9	37.6	36.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	46,283	115,223	99,416
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,077	47,872	4,142
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	53,993	58,787	136,622
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	449,038	423,989	416,742

(注)1. 当社は、国際会計基準(以下、IFRS)に準拠して連結財務諸表を作成しております。

2. 当社は連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

3. 売上収益は、消費税等抜きで表示しております。

4. 当社は、2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しました。当該株式併合が前連結会計年度期首に行われたと仮定して、親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり四半期(当期)利益および親会社の所有者に帰属する希薄化後1株当たり四半期(当期)利益を算定しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社の営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。
 なお、当該有価証券報告書の文中における将来に関する事項は本書提出日現在において判断したものです。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日（2019年9月30日）現在において判断したものです。

以下の文中において、当第2四半期連結累計期間を当第2四半期累計、当第2四半期連結会計期間を当第2四半期、前年同四半期連結累計期間及び前年同四半期連結会計期間を前年同期、前連結会計年度を前年度と記載しております。

(1) 経営成績の分析（当第2四半期累計）

損益の状況

（単位：億円）

	2018年度 第2四半期累計	2019年度 第2四半期累計	前年同期比	増減率（%）
売上収益	18,345	18,287	57	0.3
営業利益 （営業利益率）	952 (5.2%)	710 (3.9%)	242 (1.3%)	25.4
税引前四半期利益	1,172	808	364	31.1
四半期利益（親会社所有者帰属）	811	636	174	21.5

売上収益は18,287億円と、前年同期比57億円の減収となりました。国内サービスとユビキタスが大きく伸長しましたが、デバイス事業の再編や為替が円高に推移したことなどによる影響で前年同期から減収です。

営業利益は710億円と、前年同期比242億円の減益となりました。国内サービスなどで増収効果や採算性の改善がみられましたが、前年同期に計上した退職給付制度変更に関する利益や事業譲渡益の反動により、全体では減益となりました。

税引前四半期利益は808億円と、前年同期比364億円の減益となりました。営業利益が減益となったことに加え、前年同期に計上したPC事業譲渡に伴う持分法投資利益がなくなった影響などによります。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は636億円と、税引前四半期利益の減少などにより前年同期比174億円の減益となりました。

セグメント情報

(単位：億円)

		2018年度 第2四半期累計	2019年度 第2四半期累計	前年同期比	増減率(%)
売上 収 益	テクノロジーソリューション	14,091	14,546	455	3.2
	ユビキタスソリューション	2,452	2,923	471	19.2
	デバイスソリューション	2,641	1,717	923	35.0
	その他/消去又は全社	839	900	60	-
	連結計	18,345	18,287	57	0.3

営 業 利 益	テクノロジーソリューション	478	965	486	101.6
	ユビキタスソリューション	20	197	218	-
	デバイスソリューション	22	66	89	-
	その他/消去又は全社	472	386	858	-
	連結計	952	710	242	25.4

a テクノロジーソリューション

売上収益は14,546億円と、前年比3.2%の増収となりました。国内サービスが大きく伸長し、増収です。

営業利益は965億円と、前年同期比486億円の増益となりました。国内サービスの増収効果に加えて、サービス、システムプラットフォームともに採算性が好転し、増益です。

b ユビキタスソリューション

売上収益は2,923億円と、前年同期比19.2%の増収となりました。海外は為替の円高影響により減収となりましたが、国内を中心にWindows7のサポート期限終了に対応した買換え需要に支えられ、増収となりました。

営業利益は197億円と、前年同期比218億円の増益となりました。増収影響に加え、メモリ等のキーデバイスの市況価格低下によるコストダウン効果により採算性が好転し、増益です。

c デバイスソリューション

売上収益は1,717億円と、前年同期比35.0%の減収となりました。前年度に売却した半導体販売子会社及び電子部品事業子会社が連結対象外となった影響などにより、減収です。

営業利益は66億円の損失と、前年同期比89億円の減益となりました。国内工場の再編費用の計上に加えて、為替が円高に推移した影響などにより、減益です。

d その他及び消去又は全社

営業利益は386億円の損失と、前年同期比858億円の悪化となりました。前年同期に計上した退職給付制度の変更やPC事業の売却による一時的な利益がなくなった影響などによります。

(2) 資本の財源及び資金の流動性についての分析
 資産、負債及び資本の状況

(単位：億円)

	2018年度末	2019年度 第2四半期末	前年度末比
資産	31,048	31,128	79
負債	18,512	18,257	254
資本（純資産）	12,536	12,870	334
親会社所有者帰属持分（自己資本）	11,320	11,700	380
（自己資本比率）	(36.5%)	(37.6%)	(1.1%)

親会社所有者帰属持分を資産で除した自己資本比率は、当第2四半期末で37.6%と前年度末から1.1%上昇しました。

キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2018年度 第2四半期累計	2019年度 第2四半期累計	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	462	1,152	689
投資活動によるキャッシュ・フロー	10	478	489
+ フリー・キャッシュ・フロー	473	673	199
財務活動によるキャッシュ・フロー	539	587	47
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,490	4,239	250

営業活動によるキャッシュ・フローは1,152億円のプラスと、前年同期比689億円の収入増となりました。前年度第4四半期の売上水準が高く、その売掛金の回収が進んだことなどによる影響でプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは478億円のマイナスと、前年同期比489億円の収入減となりました。当期は国内サービスを中心に前年と同水準の投資を行っていますが、前年同期に計上したPC事業譲渡および中国関連会社の譲渡に関する収入がなくなったことによる影響でマイナスとなりました。

(3) 経営方針及び対処すべき課題等

経営方針及び対処すべき課題

当社グループは、常に変革に挑戦し続け、快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供することを企業理念としております。そのためには、健全な利益と成長を実現し、企業価値を持続的に向上させることが重要と考えております。

< 市場環境 >

当社グループをとりまく市場環境については、従来型の基幹システムなどの既存IT市場は、今後緩やかに縮小していくと予測されています。一方で、レガシーシステムのリプレースメントや、効率化のためのモダナイゼーション（注1）への投資は堅調に増えると予測されています。さらに、AI（人工知能）やデータ活用、IoT（モノのインターネット）など、デジタル化に向けた投資は、今後急速に拡大すると想定されています。

このような状況のもと、当社グループは、ますます需要が高まる企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）（注2）を牽引し、社会課題の解決に貢献する「DX企業」への変革を目指します。そのため、取締役会および独立役員会議などの場で議論を重ねて新たな経営方針を策定し、2019年9月に発表いたしました。

< 経営方針概要 >

今後は、AI、データ活用などのテクノロジーをベースとしたDXビジネスと、DXに必要なクラウド移行などのモダナイゼーションとを合わせて「デジタル領域」とし、これを成長させていきます。

デジタル領域においては、次の施策を進めてまいります。

DXビジネスを加速するため、これに特化したコンサルティング会社を設立します。経営戦略および各業種に特化したコンサル、ソリューションをベースとしたコンサルなど、様々な切り口で企画・提案を行い、社内外から最適なサービス・製品を用いてテクノロジーを実装し、ワンストップで提供してまいります。

そして、DXを支えるテクノロジーとして、コンピューティング、AI、5Gネットワーク、サイバーセキュリティ、クラウド、データマネジメント、IoTの7つを重点技術領域として定め、リソースを集中し強化してまいります。また、テクノロジーの強化に加え、ビジネス機会創出と新事業を推進するための投資を実行します。コーポレートベンチャーキャピタルやベンチャー企業への投資、M&Aへの投資も適宜行ってまいります。

併せて、当社グループのDXを加速するため、社内プロセスや情報インフラの刷新を行い、社内改革を実行してまいります。

当社グループが強い顧客基盤を持つ従来型ITビジネスについては、一層の効率化を推し進めるとともに、商談機会を確実に獲得することで、利益を確保してまいります。

海外ビジネスについては、成長軌道に載せるためのビジネスモデル変革に引き続き取り組んでおり、特に欧州は、NWE（Northern & Western Europe）およびCEE（Central & Eastern Europe）の2リージョンに分け、それぞれに責任者を置いて機動的にビジネスを展開してまいります。

また、非財務面での取り組みも強化してまいります。当社グループは、SDGs（Sustainable Development Goals）（注3）を経営の中心に据えて取り組んでおります。これまで責任ある企業として、世界各地域において、それぞれテーマに沿って活動してまいりましたが、今後は、グローバルに統一したテーマのもと、活動を進めてまいります。人権や多様な価値観、心身ともに健康であることを目指すウェルビーイング、地球環境、倫理・コンプライアンス、コミュニティ活動などのカテゴリーごとに目標を定め、社会課題の解決に取り組むとともに、グローバルに持続的な成長を目指してまいります。

上記の施策を推し進め、グローバルでの競争力を高めながら、DX企業への積極的な変革に取り組んでまいります。中期経営目標として、2022年度には、本業のテクノロジーソリューションにその他全社消去を加味した値として、売上高3兆5千億円、連結営業利益率10%の達成を目指してまいります。

< コンプライアンスへの取り組み >

なお、当社グループは、企業価値の維持・向上の観点から、コンプライアンスを含む内部統制体制の構築および運用を経営の最重要事項の一つと認識し、FUJITSU Wayの「行動規範」に則り、その徹底を図っております。コンプライアンスに関する取り組みの一層の強化も対処すべき課題と位置づけ、今後も、継続して取り組んでまいります。

- (注) 1. 現状の資産を活用しながら、変化対応力を備え、先進技術を素早く活用できるシステムへ変革していくこと。
2. デジタル技術とデータを駆使して革新的なサービスやビジネスプロセスの変革をもたらすもの。
3. 2015年に国連で採択された国際社会が環境や社会、経済活動を未来に向けて持続可能とするための世界共通の開発目標。

財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、企業価値を向上させることが、結果として買収防衛にもつながるという基本的な考え方のもと、企業価値向上に注力しているところであり、現時点で特別な防衛策は導入しておりません。

当社に対して買収提案があった場合は、取締役会は、当社の支配権の所在を決定するのは株主であるとの認識のもと、適切な対応を行います。

(4) 研究開発活動

当社グループでは、デジタルテクノロジーにより、「人」「企業」「システム」「プロセス」「データ」などが複雑かつ無限につながる社会において、あらゆる局面で求められる信頼「Trust」を確保することを重要な技術戦略に位置付けております。そして、このデジタル時代のTrustの実現と共に、デジタル技術とデータを駆使して革新的なサービスやビジネスプロセスの変革をもたらす、DX（デジタルトランスフォーメーション）企業を目指し、イノベーションが絶えず生まれるために必要な先端テクノロジー開発に取り組んでおります。

当社グループの事業は、「テクノロジーソリューション」、「ユビキタスソリューション」及び「デバイスソリューション」の各セグメントにより構成されており、上記の研究開発方針のもと、それぞれの分野ごとに研究開発活動を行っております。「テクノロジーソリューション」では、次世代のサービス、サーバ、ネットワーク等に関する研究開発を行っております。「ユビキタスソリューション」では、ユビキタス社会に不可欠な製品及び技術に関する研究開発を行っております。「デバイスソリューション」では、LSI、電子部品（半導体パッケージ及び電池）等の各種デバイス製品及び関連技術に関する研究開発を行っております。また、当第2四半期累計における研究開発費の総額は、606億円です。

(5) 従業員数

当社の従業員数は、前年度末から1,738名増加し、当第1四半期末において33,565名となりました。これは、テクノロジーソリューションにおいて、2019年4月1日付けで富士通エフ・アイ・ピー株式会社のデータセンターサービス事業を当社に承継させる吸収分割を実施したことなどによるものです。また、当第2四半期末における当社の従業員数は33,050名となりました。

なお、従業員数は就業人員（当社グループ（当社及び連結子会社）からグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）です。

(6) 主要な設備

当社は、2019年4月1日付けで富士通エフ・アイ・ピー株式会社のデータセンターサービス事業を当社に承継させる吸収分割を実施しました。これにより、富士通エフ・アイ・ピー株式会社が保有していたアウトソーシング設備は当社の設備となりました。

なお、IFRS第16号の適用による影響については、「第4 経理の状況 要約四半期連結財務諸表注記 3. 重要な会計方針」に記載しています。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月1日)	上場金融商品取引所名又 は登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	207,001,821	207,001,821	東京・名古屋各市場第一部	単元株式数 100株
計	207,001,821	207,001,821	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	207,001	-	324,625	-	-

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1 NORTH BRIDGE ROAD, 06-08 HIGH STREET CENTRE, SINGAPORE 179094 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	14,899	7.35
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	12,942	6.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,799	5.33
富士電機株式会社	川崎市川崎区田辺新田1-1	5,949	2.94
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	5,616	2.77
富士通株式会社従業員持株会	川崎市中原区上小田中4丁目1-1	5,134	2.53
JP MORGAN CHASE BANK 385151(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM(東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	3,864	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	3,863	1.91
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6-1	3,518	1.74
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A.(東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	3,409	1.68
計	-	69,998	34.54

(注)1. 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)の所有株式数は、各行の信託業務に係るものです。

2. 2019年1月25日付で、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ブラックロック・ジャパン株式会社及びその共同保有者8者が2018年1月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	38,042,000	1.84
ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー(BlackRock Advisers, LLC)	2,268,000	0.11
ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(BlackRock Investment Management LLC)	2,123,936	0.10
ブラックロック・ファンド・マネジャーズ・リミテッド(BlackRock Fund Managers Limited)	2,627,765	0.13
ブラックロック・ライフ・リミテッド(BlackRock Life Limited)	3,088,403	0.15
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド(BlackRock Asset Management Ireland Limited)	9,438,524	0.46
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ(BlackRock Fund Advisors)	30,903,000	1.49
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ・エイ。(BlackRock Institutional Trust Company, N.A.)	37,095,226	1.79
ブラックロック・インベストメント・マネジメント(ユーケー)リミテッド(BlackRock Investment Management (UK) Limited)	5,082,802	0.25
合計	130,669,656	6.31

3. 2019年4月22日付で、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社みずほ銀行及びその共同保有者1者が2019年4月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	2,696,353	1.30
アセットマネジメントOne株式会社	7,212,800	3.48
合計	9,909,153	4.79

4. 2019年5月21日付で、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッド及びその共同保有者2者が2019年5月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッド (Ichigo Asset Management International, Pte. Ltd.)	0	0.00
いちごアセットマネジメント株式会社	100	0.00
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド (Ichigo Trust Pte. Ltd.)	14,617,100	7.06
合計	14,617,200	7.06

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,315,800	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 25,300	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 201,608,900	2,016,089	-
単元未満株式	普通株式 1,051,821	-	-
発行済株式総数	207,001,821	-	-
総株主の議決権	-	2,016,089	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に保有していない株式が90株含まれております。
2. 「完全議決権株式(その他)」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3,600株(議決権の数36個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
富士通株式会社	川崎市中原区上小田中四丁目1番1号	4,315,800	-	4,315,800	2.08
北陸コンピュータ・サービス株式会社	石川県金沢市駅西本町二丁目7番21号	12,300	1,300	13,600	0.01
株式会社HDC	札幌市中央区南一条西十丁目2	5,000	-	5,000	0.00
中央コンピューター株式会社	大阪市北区中之島六丁目2番27号	-	3,000	3,000	0.00
株式会社東和システム	東京都千代田区神田小川町三丁目10番地	-	2,800	2,800	0.00
株式会社テクノプロジェクト	島根県松江市学園南二丁目10番14号	900	-	900	0.00
計	-	4,334,000	7,100	4,341,100	2.10

- (注) 1. 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が90株含まれております。
2. 北陸コンピュータ・サービス株式会社、中央コンピューター株式会社及び株式会社東和システムの他人名義所有株式は、FSA富士通持株会名義の株式のうち、各社が議決権行使の指図権を有する持分です。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当第2四半期累計期間における役員の異動は以下のとおりです。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

当社は、役員選任プロセスの透明性および客観性の確保、役員報酬決定プロセスの透明性および客観性ならびに役員報酬体系および水準の妥当性の確保などを目的として、取締役会の諮問機関である指名委員会および報酬委員会を設置しています。

当社は、2019年7月25日開催の取締役会において、両委員会の委員を以下のとおり決定しました。

< 指名委員会 >

委員長	再任	横田 淳	(当社独立社外取締役)
委員	再任	向井 千秋	(当社独立社外取締役、東京理科大学 特任副学長)
委員	新任	古城 佳子	(当社独立社外取締役、東京大学大学院総合文化研究科 教授)
委員	新任	田中 達也	(当社取締役会長)

< 報酬委員会 >

委員長	再任	向井 千秋	(上記のとおり)
委員	再任	横田 淳	(上記のとおり)
委員	新任	古城 佳子	(上記のとおり)
委員	新任	田中 達也	(上記のとおり)

第4【経理の状況】

1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第1条の2第1号イ及び第2号に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準（IAS）第34号「期中財務報告」（以下、IAS第34号）に準拠して作成しております。

（注）第2四半期連結会計期間（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）における当第2四半期連結会計期間を「当第2四半期」、前第2四半期連結会計期間を「前第2四半期」と記載し、第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）における当第2四半期連結累計期間を「当第2四半期累計」、前第2四半期連結累計期間を「前第2四半期累計」と記載し、連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）における当連結会計年度を「当年度」、前連結会計年度を「前年度」と記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）及び第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記番号	前年度末 (2019年 3月31日)	当第2四半期末 (2019年 9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	6	416,684	413,002
売上債権		906,120	693,460
その他の債権		119,446	77,968
棚卸資産		226,045	290,889
その他の流動資産	11	217,673	279,446
(小計)		1,885,968	1,754,765
売却目的で保有する資産	7	73,381	85,342
流動資産合計		1,959,349	1,840,107
非流動資産			
有形固定資産	3	439,078	591,802
のれん		38,348	37,588
無形資産		116,905	106,382
持分法で会計処理されている投資		147,788	149,255
その他の投資		149,799	141,705
繰延税金資産		105,663	102,377
その他の非流動資産		147,912	143,611
非流動資産合計		1,145,493	1,272,720
資産合計		3,104,842	3,112,827
負債及び資本			
負債			
流動負債			
仕入債務		528,744	490,103
その他の債務		426,344	331,044
社債、借入金及びリース債務	3,10	130,875	203,923
未払法人所得税		13,517	18,351
引当金		56,489	40,298
その他の流動負債	11	201,333	210,400
(小計)		1,357,302	1,294,119
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	7	7,605	9,507
流動負債合計		1,364,907	1,303,626
非流動負債			
社債、借入金及びリース債務	3	185,336	255,684
退職給付に係る負債		181,246	184,425
引当金		55,388	35,654
繰延税金負債		2,820	1,646
その他の非流動負債		61,515	44,717
非流動負債合計		486,305	522,126
負債合計		1,851,212	1,825,752
資本			
資本金		324,625	324,625
資本剰余金		235,455	235,085
自己株式		29,556	29,545
利益剰余金		576,857	623,151
その他の資本の構成要素	8	24,674	16,780
親会社の所有者に帰属する持分合計		1,132,055	1,170,096
非支配持分		121,575	116,979
資本合計		1,253,630	1,287,075
負債及び資本合計		3,104,842	3,112,827

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記番号	前第2四半期累計 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期累計 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上収益	5, 11	1,834,544	1,828,763
売上原価		1,361,704	1,317,102
売上総利益		472,840	511,661
販売費及び一般管理費		477,067	428,942
その他の収益		113,970	5,115
その他の費用		14,468	16,774
営業利益	5	95,275	71,060
金融収益	12	9,537	4,354
金融費用	12	2,312	2,653
持分法による投資利益		14,711	8,044
税引前四半期利益		117,211	80,805
法人所得税費用		31,077	18,856
四半期利益		86,134	61,949
四半期利益の帰属：			
親会社の所有者		81,131	63,659
非支配持分		5,003	1,710
合計		86,134	61,949
1株当たり四半期利益	13		
基本的1株当たり四半期利益(円)		396.46	314.08
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		396.36	314.00

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記番号	前第2四半期累計 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期累計 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
四半期利益		86,134	61,949
その他の包括利益			
純損益に振り替えられないことのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		7,048	2,423
確定給付制度の再測定		14,047	1,832
持分法適用会社のその他の包括利益持分		198	63
		20,897	528
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		156	10,205
キャッシュ・フロー・ヘッジ		6	82
持分法適用会社のその他の包括利益持分		97	622
		65	10,909
税引後その他の包括利益		20,832	10,381
四半期包括利益		106,966	51,568
四半期包括利益の帰属：			
親会社の所有者		101,523	54,116
非支配持分		5,443	2,548
合計		106,966	51,568

【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記番号	前第2四半期 (自 2018年 7月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期 (自 2019年 7月 1日 至 2019年 9月30日)
売上収益	5,11	966,887	990,026
売上原価		712,557	703,743
売上総利益		254,330	286,283
販売費及び一般管理費		236,008	212,761
その他の収益		2,540	1,587
その他の費用		5,180	7,434
営業利益	5	15,682	67,675
金融収益	12	3,497	1,306
金融費用	12	942	1,143
持分法による投資利益		1,974	6,704
税引前四半期利益		20,211	74,542
法人所得税費用		10,031	18,160
四半期利益		10,180	56,382
四半期利益の帰属：			
親会社の所有者		8,375	56,565
非支配持分		1,805	183
合計		10,180	56,382
1株当たり四半期利益	13		
基本的1株当たり四半期利益(円)		40.97	279.08
希薄化後1株当たり四半期利益(円)		40.90	279.01

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記番号	前第2四半期 (自 2018年 7月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期 (自 2019年 7月 1日 至 2019年 9月30日)
四半期利益		10,180	56,382
その他の包括利益			
純損益に振り替えられないことのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		7,528	1,258
確定給付制度の再測定		14,010	1,639
持分法適用会社のその他の包括利益持分		244	57
		21,294	2,840
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		1,682	2,553
キャッシュ・フロー・ヘッジ		5	87
持分法適用会社のその他の包括利益持分		567	808
		2,254	3,274
税引後その他の包括利益		23,548	6,114
四半期包括利益		33,728	50,268
四半期包括利益の帰属：			
親会社の所有者		31,649	50,672
非支配持分		2,079	404
合計		33,728	50,268

(3)【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期累計(自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)

(単位:百万円)

	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本合計
		資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			
2018年 4月 1日残高		324,625	233,941	7,237	479,776	56,692	1,087,797	117,105	1,204,902
会計方針の変更による 累積的影響額					20,200	20,467	267		267
会計方針の変更を反映 した当期首残高		324,625	233,941	7,237	499,976	36,225	1,087,530	117,105	1,204,635
四半期利益					81,131		81,131	5,003	86,134
その他の包括利益	8					20,392	20,392	440	20,832
四半期包括利益		-	-	-	81,131	20,392	101,523	5,443	106,966
自己株式の取得			5	10,028			10,033		10,033
自己株式の処分				8			8		8
株式報酬取引			73				73		73
剰余金の配当					12,352		12,352	2,022	14,374
利益剰余金への振替					11,023	11,023	-		-
その他			164		541	541	164	407	571
2018年 9月30日残高		324,625	234,173	17,257	579,237	46,135	1,166,913	120,933	1,287,846

当第2四半期累計(自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)

(単位:百万円)

	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本合計
		資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			
2019年 4月 1日残高		324,625	235,455	29,556	576,857	24,674	1,132,055	121,575	1,253,630
四半期利益					63,659		63,659	1,710	61,949
その他の包括利益	8					9,543	9,543	838	10,381
四半期包括利益		-	-	-	63,659	9,543	54,116	2,548	51,568
自己株式の取得				31			31		31
自己株式の処分				42			42		42
株式報酬取引			170				170		170
剰余金の配当	9				16,214		16,214	1,880	18,094
利益剰余金への振替					1,650	1,650	-		-
その他			540		499	1	42	168	210
2019年 9月30日残高		324,625	235,085	29,545	623,151	16,780	1,170,096	116,979	1,287,075

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記番号	前第2四半期累計 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期累計 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益		117,211	80,805
減価償却費、償却費及び減損損失	3	74,489	108,263
引当金の増減額(は減少)		3,320	22,045
退職給付に係る負債の増減額(は減少)		91,800	15,741
受取利息及び受取配当金		3,724	3,724
支払利息		1,563	2,064
持分法による投資損益(は益)		14,711	8,044
子会社株式売却損益(は益)		14,029	309
売上債権の増減額(は増加)		220,585	195,773
棚卸資産の増減額(は増加)		65,744	72,961
仕入債務の増減額(は減少)		18,355	28,714
その他	6,11	112,609	119,139
小計		89,556	116,846
利息の受取額		1,264	1,490
配当金の受取額		3,736	3,615
利息の支払額		1,938	2,104
法人所得税の支払額		46,335	4,624
営業活動によるキャッシュ・フロー		46,283	115,223
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産及び無形資産の取得による支出		62,131	61,762
投資有価証券の売却による収入		40,942	14,278
子会社及び事業の売却による収支(は支出)		16,840	3,873
貸付金の回収による収入		2,469	1,310
その他		2,957	2,175
投資活動によるキャッシュ・フロー		1,077	47,872
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金等の純増減額(は減少)		11,727	31,515
長期借入金及び社債の発行による収入		62	3
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	10	36,539	40,117
リース債務の支払額	3	6,132	34,163
自己株式の取得による支出		10,028	31
親会社の所有者への配当金の支払額	9	12,352	16,214
その他		731	220
財務活動によるキャッシュ・フロー		53,993	58,787
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		6,633	8,564
現金及び現金同等物の期首残高		452,671	416,742
現金及び現金同等物の為替変動による影響		3,000	1,317
現金及び現金同等物の四半期末残高	6	449,038	423,989

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

富士通株式会社（以下、当社）は、日本に所在する企業であります。当社の要約四半期連結財務諸表は、当社及び連結子会社（以下、当社グループ）、並びに当社グループの関連会社に対する持分により構成されております。当社グループは、ICT分野において、各種サービスを提供するとともに、これらを支える最先端、高性能、かつ高品質のプロダクト及び電子デバイスの開発、製造、販売から保守運用までを総合的に提供する、トータルソリューションビジネスを行っております。

2. 作成の基礎

当社の要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2第1号イ及び第2号に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しており、年度の連結財務諸表で要求される全ての情報を含んでおりません。要約四半期連結財務諸表は、2019年3月31日に終了した前年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

当要約四半期連結財務諸表は2019年11月1日に当社代表取締役社長 時田 隆仁及び最高財務責任者（CFO） 磯部 武司によって承認されております。

連結財務諸表は、連結財政状態計算書における以下の重要な項目を除き、取得原価を基礎として作成されております。

- ・公正価値で測定する金融商品
- ・確定給付負債または資産（確定給付制度債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除して測定）

連結財務諸表は当社の機能通貨である日本円で表示しております。日本円で表示している財務情報は、原則として百万円未満を四捨五入して表示しております。

3. 重要な会計方針

当要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前年度において適用したものと同一であります。

当社グループは、当第1四半期よりIFRS第16号「リース」（以下、IFRS第16号）を適用しております。

適用された会計方針及び当年度の期首において認識した累積的影響額につきましては、当年度の第1四半期四半期報告書 第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 [要約四半期連結財務諸表注記] 3. 重要な会計方針に記載しております。

基準適用に伴う当第2四半期累計における資産、負債、資本への影響及び営業利益、四半期利益への影響は軽微であります。なお、IFRS第16号の適用に伴い、当第1四半期より、リース債務の支払を財務活動によるキャッシュ・フローとして表示するため、使用権資産の減価償却費等に係る調整が営業活動によるキャッシュ・フローに含まれることとなります。その結果、当第2四半期累計において、従前のIAS第17号を適用した場合に比べ、営業活動によるキャッシュ・フローが28,495百万円増加し、財務活動によるキャッシュ・フローが28,495百万円減少しております。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

IFRSに準拠した連結財務諸表の作成において、経営陣は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用に影響を与える判断、見積り及び仮定を必要としておりますが、実際の結果と異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した連結会計期間及び影響を受ける将来の連結会計期間において認識されます。現在の状況と将来の展望に関する仮定は、当社グループにとって制御不能な市場の変化又は状況により変化する可能性があります。こうした仮定の変更は、それが起きた時点で反映しております。

当要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前年度と同様であります。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントごとの売上収益及び営業利益の金額に関する情報
(第2四半期連結累計期間)

	前第2四半期累計(自2018年4月1日至2018年9月30日)						
	報告セグメント						
	テクノロジーソリューション	ユビキタスソリューション	デバイスソリューション	計	その他	消去又は 全社	連結計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	1,383,584	177,187	249,146	1,809,917	8,287	16,340	1,834,544
セグメント間収益	25,542	68,090	14,973	108,605	25,891	134,496	-
収益合計	1,409,126	245,277	264,119	1,918,522	34,178	118,156	1,834,544
営業利益	47,883	2,090	2,274	48,067	10,397	57,605	95,275
金融収益							9,537
金融費用							2,312
持分法による投資利益							14,711
税引前四半期利益							117,211

	当第2四半期累計(自2019年4月1日至2019年9月30日)						
	報告セグメント						
	テクノロジーソリューション	ユビキタスソリューション	デバイスソリューション	計	その他	消去又は 全社	連結計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	1,432,452	212,959	162,893	1,808,304	19,655	804	1,828,763
セグメント間収益	22,212	79,439	8,832	110,483	22,859	133,342	-
収益合計	1,454,664	292,398	171,725	1,918,787	42,514	132,538	1,828,763
営業利益	96,554	19,779	6,631	109,702	2,982	35,660	71,060
金融収益							4,354
金融費用							2,653
持分法による投資利益							8,044
税引前四半期利益							80,805

(第2四半期連結会計期間)

	前第2四半期(自2018年7月1日至2018年9月30日)						
	報告セグメント						
	テクノロジーソリューション	ユビキタスソリューション	デバイスソリューション	計	その他	消去又は 全社	連結計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	731,619	96,240	125,106	952,965	5,166	8,756	966,887
セグメント間収益	13,147	33,719	7,659	54,525	13,452	67,977	-
収益合計	744,766	129,959	132,765	1,007,490	18,618	59,221	966,887
営業利益	43,819	2,250	1,557	43,126	3,742	23,702	15,682
金融収益							3,497
金融費用							942
持分法による投資利益							1,974
税引前四半期利益							20,211

	当第2四半期(自2019年7月1日至2019年9月30日)						
	報告セグメント						
	テクノロジーソリューション	ユビキタスソリューション	デバイスソリューション	計	その他	消去又は 全社	連結計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益							
外部収益	777,073	120,274	81,783	979,130	10,285	611	990,026
セグメント間収益	12,901	45,349	5,312	63,562	12,796	76,358	-
収益合計	789,974	165,623	87,095	1,042,692	23,081	75,747	990,026
営業利益	70,427	15,232	1,109	86,768	979	18,114	67,675
金融収益							1,306
金融費用							1,143
持分法による投資利益							6,704
税引前四半期利益							74,542

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、次世代スーパーコンピュータ事業、次世代クラウド事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファンリティサービス事業等が含まれております。
- (注) 2. 売上収益における「消去又は全社」はセグメント間取引の消去等であります。
- (注) 3. 営業利益における「消去又は全社」には全社費用及びセグメント間取引の消去等が含まれており、前第2四半期累計、当第2四半期累計、前第2四半期及び当第2四半期に発生した金額はそれぞれ、全社費用:59,310百万円(退職給付制度改訂に伴う利益91,996百万円及び子会社株式売却益11,518百万円を含む)、32,250百万円、22,187百万円、17,257百万円、セグメント間取引の消去等:1,705百万円、3,410百万円、1,515百万円、857百万円であります。
- なお、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用であります。

(2) 製品及びサービスごとの情報

(第2四半期連結累計期間)

外部収益

	前第2四半期累計 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
テクノロジーソリューション		
サービス(注)1	1,189,854	1,239,040
システムプラットフォーム(注)2	193,730	193,412
ユビキタスソリューション		
パソコン	158,075	195,164
モバイルウェア(注)3	19,112	17,795
デバイスソリューション		
LSI	121,539	35,295
電子部品	127,607	127,598
その他	8,287	19,655
全社他	16,340	804
合計	1,834,544	1,828,763

(第2四半期連結会計期間)

外部収益

	前第2四半期 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
テクノロジーソリューション		
サービス(注)1	623,630	664,039
システムプラットフォーム(注)2	107,989	113,034
ユビキタスソリューション		
パソコン	85,645	109,751
モバイルウェア(注)3	10,595	10,523
デバイスソリューション		
LSI	61,957	17,353
電子部品	63,149	64,430
その他	5,166	10,285
全社他	8,756	611
合計	966,887	990,026

(注)1. システムインテグレーション(システム構築、業務アプリケーション等)、コンサルティング、フロントテクノロジー(ATM、POSシステム等)、アウトソーシングサービス(データセンター、ICT運用管理、アプリケーション運用・管理、ビジネスプロセスアウトソーシング等)、クラウドサービス(IaaS、PaaS、SaaS等)、ネットワークサービス(ビジネスネットワーク等)、システムサポートサービス(情報システム及びネットワークの保守・監視サービス等)、セキュリティソリューション

(注)2. 各種サーバ(メインフレーム、UNIXサーバ、基幹IAサーバ、PCサーバ等)、ストレージシステム、各種ソフトウェア(OS、ミドルウェア)、ネットワーク管理システム、光伝送システム、携帯電話基地局

(注)3. モビリティIoT/ヒューマンセントリックIoT等

(3) 地域ごとの情報
(第 2 四半期連結累計期間)

外部収益

	前第 2 四半期累計 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期累計 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
	百万円	百万円
国内 (日本)	1,130,077	1,226,290
海外		
EMEIA	375,018	332,048
アメリカ	125,682	103,732
アジア	159,810	130,006
オセアニア	43,957	36,687
合計	1,834,544	1,828,763

(第 2 四半期連結会計期間)

外部収益

	前第 2 四半期 (自 2018年 7月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期 (自 2019年 7月 1日 至 2019年 9月30日)
	百万円	百万円
国内 (日本)	607,484	692,497
海外		
EMEIA	190,903	163,097
アメリカ	65,420	51,528
アジア	82,222	65,331
オセアニア	20,858	17,573
合計	966,887	990,026

(注) 1 . 外部収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(注) 2 . 海外の各区分に属する主な国又は地域

() EMEIA (欧州・中近東・インド・アフリカ) イギリス、ドイツ、スペイン、フィンランド、スウェーデン

() アメリカ 米国、カナダ

() アジア 中国、シンガポール、韓国、台湾

() オセアニア オーストラリア

(注) 3 . 個別に区分して開示すべき重要な国はありません。

6. 現金及び現金同等物

当第2四半期末(2019年9月30日)

連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の四半期末残高423,989百万円には売却目的で保有する資産に分類した現金及び現金同等物10,987百万円が含まれております。

営業活動によるキャッシュ・フローのその他には、前年度に計上した間接・支援部門の45歳以上の正規従業員、定年後再雇用従業員を対象として実施したキャリア転進支援に伴う退職金の特別加算等に係る未払金の減少額45,577百万円が含まれております。

7. 売却目的で保有する資産

	前年度末 (2019年 3月31日)	当第2四半期末 (2019年 9月30日)
	百万円	百万円
売却目的で保有する資産	73,381	85,342
売却目的で保有する資産 に直接関連する負債	7,605	9,507

前年度末

前年度において、主に以下の事業に関連する資産及び負債の売却を決定し、売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債として分類しております。

当社の国内連結子会社である富士通セミコンダクター株式会社(以下、FSL)とユナイテッド・マイクロエレクトロニクス・コーポレーション(以下、UMC)は、2018年6月29日に、両社合併運営の300mm半導体製造会社である三重富士通セミコンダクター株式会社(以下、MIFS)の全株式をUMCが取得することにつき、合意いたしました。

これに伴い、MIFSが保有する資産及び負債を売却目的保有に分類しております。

当該株式は2019年10月1日に譲渡手続きを完了しております。

なお、当該資産及び負債は、セグメント上、デバイスソリューションに含まれております。

売却目的で保有する資産には、主に有形固定資産43,980百万円、売上債権11,111百万円が含まれております。また、売却目的で保有する資産に直接関連する負債には、主にその他の債務3,827百万円、仕入債務2,422百万円が含まれております。

なお、当社グループは、資金効率の向上のためグループファイナンスを行っており、MIFSは、運転資金のうち11,354百万円をグループ内の預け金として保有しております。当該預け金は、連結上、内部取引として消去されるため、売却目的で保有する資産には含まれておりません。

当第2四半期末

主に以下の事業に関連する資産及び負債の売却を決定し、売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債として分類しております。

当社の国内連結子会社である富士通セミコンダクター株式会社(以下、FSL)とユナイテッド・マイクロエレクトロニクス・コーポレーション(以下、UMC)は、2018年6月29日に、両社合併運営の300mm半導体製造会社である三重富士通セミコンダクター株式会社(以下、MIFS)の全株式をUMCが取得することにつき、合意いたしました。

これに伴い、MIFSが保有する資産及び負債を売却目的保有に分類しております。

当該株式は2019年10月1日に譲渡手続きを完了しております。

なお、当該資産及び負債は、セグメント上、デバイスソリューションに含まれております。

売却目的で保有する資産には、主に有形固定資産40,594百万円、売上債権12,506百万円、現金及び現金同等物10,987百万円が含まれております。また、売却目的で保有する資産に直接関連する負債には、主に社債、借入金及びリース債務3,474百万円、その他の債務3,229百万円、仕入債務1,399百万円が含まれております。

8. 資本及びその他の資本項目

その他の資本の構成要素及びその他の包括利益の各項目の増減

	前第2四半期累計 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期累計 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
	百万円	百万円
在外営業活動体の換算差額		
期首残高	11,110	15,694
その他の包括利益	495	10,107
その他	-	-
期末残高	11,605	25,801
キャッシュ・フロー・ヘッジ		
期首残高	66	8
その他の包括利益	7	81
その他	-	-
期末残高	59	73
売却可能金融資産		
期首残高	67,868	-
会計方針の変更による 累積的影響額	67,868	-
会計方針の変更を反映した 期首残高	-	-
その他の包括利益	-	-
その他	-	-
期末残高	-	-
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産		
期首残高	-	40,360
会計方針の変更による 累積的影響額	47,401	-
会計方針の変更を反映した 期首残高	47,401	40,360
その他の包括利益	6,889	2,384
その他	3,509	90
期末残高	57,799	42,654
確定給付制度の再測定		
期首残高	-	-
その他の包括利益	13,991	1,739
その他	13,991	1,739
期末残高	-	-
その他の資本の構成要素合計		
期首残高	56,692	24,674
会計方針の変更による 累積的影響額	20,467	-
会計方針の変更を反映した 期首残高	36,225	24,674
その他の包括利益	20,392	9,543
その他	10,482	1,649
期末残高	46,135	16,780

9. 配当金

配当金の支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月23日 取締役会	普通株式	16,214	80円	2019年3月31日	2019年6月3日	利益剰余金

基準日が当第2四半期累計に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月29日 取締役会	普通株式	16,215	80円	2019年9月30日	2019年11月22日	利益剰余金

10. 社債

当第2四半期累計(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

償還期限が到来した普通社債(第35回無担保社債、利率 年0.339%、発行年月日2014年6月12日、償還期限2019年6月12日)40,000百万円を償還しております。

11. 売上収益

(1) 売上収益の分解

当社グループは売上収益を顧客の所在地を基礎とした地域別に分解しております。

分解した地域別の売上収益と報告セグメントとの関係は以下のとおりです。

(第2四半期連結累計期間)

外部収益	前第2四半期累計(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)					
	日本 百万円	EMEIA 百万円	アメリカ 百万円	アジア 百万円	オセアニア 百万円	連結計 百万円
テクノロジーソリューション	901,385	306,001	85,707	46,568	43,923	1,383,584
ユビキタスソリューション	113,213	51,206	1,114	11,654	-	177,187
デバイスソリューション	104,578	17,811	34,304	92,419	34	249,146
その他/消去又は全社	10,901	-	4,557	9,169	-	24,627
合計	1,130,077	375,018	125,682	159,810	43,957	1,834,544

外部収益	当第2四半期累計(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)					
	日本 百万円	EMEIA 百万円	アメリカ 百万円	アジア 百万円	オセアニア 百万円	連結計 百万円
テクノロジーソリューション	995,294	274,007	77,271	49,223	36,657	1,432,452
ユビキタスソリューション	148,663	50,290	1,027	12,979	-	212,959
デバイスソリューション	62,642	7,693	24,947	67,581	30	162,893
その他/消去又は全社	19,691	58	487	223	-	20,459
合計	1,226,290	332,048	103,732	130,006	36,687	1,828,763

(第2四半期連結会計期間)

外部収益	前第2四半期(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)					連結計 百万円
	日本 百万円	EMEIA 百万円	アメリカ 百万円	アジア 百万円	オセアニア 百万円	
テクノロジーソリューション	485,494	153,768	45,828	25,683	20,846	731,619
ユビキタスソリューション	62,292	27,355	555	6,038	-	96,240
デバイスソリューション	52,742	9,780	16,949	45,623	12	125,106
その他/消去又は全社	6,956	-	2,088	4,878	-	13,922
合計	607,484	190,903	65,420	82,222	20,858	966,887

外部収益	当第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)					連結計 百万円
	日本 百万円	EMEIA 百万円	アメリカ 百万円	アジア 百万円	オセアニア 百万円	
テクノロジーソリューション	559,857	135,816	39,023	24,817	17,560	777,073
ユビキタスソリューション	90,266	23,215	486	6,307	-	120,274
デバイスソリューション	31,732	4,065	11,791	34,182	13	81,783
その他/消去又は全社	10,642	1	228	25	-	10,896
合計	692,497	163,097	51,528	65,331	17,573	990,026

(注) 1. リースから生じる売上収益も含まれております。

(注) 2. 海外の各区分に属する主な国又は地域

() EMEIA(欧州・中近東・インド・アフリカ)・・・イギリス、ドイツ、スペイン、フィンランド、スウェーデン

() アメリカ・・・米国、カナダ

() アジア・・・中国、シンガポール、韓国、台湾

() オセアニア・・・オーストラリア

(2) 契約資産及び契約負債

前年度末(2019年3月31日)及び当第2四半期末(2019年9月30日)における契約資産の残高はそれぞれ、107,719百万円、173,928百万円であります。前年度末(2019年3月31日)及び当第2四半期末(2019年9月30日)における契約負債の残高はそれぞれ、166,313百万円、179,005百万円であります。

なお、要約四半期連結財政状態計算書において、契約資産及び契約負債はそれぞれ、その他の流動資産及びその他の流動負債に含めて表示しております。

12. 金融収益及び金融費用

(第2四半期連結累計期間)

金融収益

	前第2四半期累計 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
受取利息	1,267	1,414
受取配当金	2,457	2,310
為替差益	5,437	-
その他	376	630
合計	9,537	4,354

金融費用

	前第2四半期累計 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
支払利息	1,563	2,064
為替差損	-	312
その他	749	277
合計	2,312	2,653

(第2四半期連結会計期間)

金融収益

	前第2四半期 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
受取利息	752	691
受取配当金	182	168
為替差益	2,377	255
その他	186	192
合計	3,497	1,306

金融費用

	前第2四半期 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
	百万円	百万円
支払利息	772	1,029
その他	170	114
合計	942	1,143

13. 1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

(第2四半期連結累計期間)

(1) 基本的1株当たり四半期利益

	前第2四半期累計 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	81,131	63,659
基本的加重平均普通株式数(千株)	204,641	202,683
基本的1株当たり四半期利益(円)	396.46	314.08

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益

	前第2四半期累計 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	81,131	63,659
子会社及び関連会社の発行する潜在株式に係る調整額(百万円)	11	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益(百万円)	81,120	63,659
基本的加重平均普通株式数(千株)	204,641	202,683
条件付発行可能株式による調整(千株)	22	53
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する加重平均普通株式数(千株)	204,663	202,736
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	396.36	314.00

(第2四半期連結会計期間)

(1) 基本的1株当たり四半期利益

	前第2四半期 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	8,375	56,565
基本的加重平均普通株式数(千株)	204,395	202,684
基本的1株当たり四半期利益(円)	40.97	279.08

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益

	前第2四半期 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	8,375	56,565
子会社及び関連会社の発行する潜在株式に係る調整額(百万円)	14	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益(百万円)	8,361	56,565
基本的加重平均普通株式数(千株)	204,395	202,684
条件付発行可能株式による調整(千株)	22	53
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する加重平均普通株式数(千株)	204,417	202,737
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	40.90	279.01

(注) 当社は、2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しました。IAS第33号「1株当たり利益」に基づき当該株式併合が前年度期首に行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益を算定しております。

14. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値の算定方法

デリバティブ

契約を締結している金融機関から提示された価格や利用可能な情報に基づく適切な評価方法により見積っております。

株式

活発な市場での公表価格が入手できる場合は、公表価格を用いております。活発な市場での公表価格が入手できない場合は、将来キャッシュ・フローを割り引く方法、又はその他の適切な評価方法により見積っております。

債券

活発な市場での公表価格が入手できる場合は、公表価格を用いております。活発な市場での公表価格が入手できない場合は、取引先金融機関から提示された価格に基づく適切な評価方法により見積っております。

社債

市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

長期借入金

元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(2) 償却原価で測定する金融資産及び金融負債

	前年度末 (2019年3月31日)		当第2四半期末 (2019年9月30日)	
	帳簿価額 百万円	公正価値 百万円	帳簿価額 百万円	公正価値 百万円
資産				
償却原価で測定する金融資産				
債券(非流動)	2,900	2,983	2,654	2,606
合計	2,900	2,983	2,654	2,606
負債				
償却原価で測定する金融負債				
社債(非流動)	74,910	75,643	54,946	55,500
長期借入金(非流動)	92,986	93,321	82,833	83,107
合計	167,896	168,964	137,779	138,607

償却原価で測定する金融資産及び金融負債のうち、流動資産又は流動負債に分類されるものについては、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっております。

(3) 公正価値で測定する金融資産及び金融負債

公正価値のヒエラルキー

レベル1：活発な市場での公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能なインプットを直接又は間接的に使用して測定された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価方法により測定された公正価値

	前年度末(2019年3月31日)				当第2四半期末(2019年9月30日)			
	公正価値				公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
資産								
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産								
デリバティブ	-	748	-	748	-	863	-	863
債券	-	-	10,569	10,569	-	-	10,557	10,557
株式等	1,720	-	4,374	6,094	1,671	-	4,036	5,707
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産								
株式等	71,631	30	59,285	130,946	60,932	30	61,039	122,001
合計	73,351	778	74,228	148,357	62,603	893	75,632	139,128
負債								
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債								
デリバティブ	-	291	-	291	-	422	-	422
合計	-	291	-	291	-	422	-	422

当第2四半期累計において、ヒエラルキーレベル3で公正価値測定を行っている金融資産の重要な変動は生じておりません。

15. 関連当事者

当第2四半期累計(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

種類	会社等の名称	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	未決済残高 (百万円)
関連会社	富士通クライアントコンピューティング㈱	当社グループが販売するシステム商談等に含まれるパソコンの製造委託	仕入高、パソコンの製造委託	161,405	72,501

(注) 記載した取引は公正な価格をベースにした取引条件となっております。

16. 後発事象

重要な後発事象はありません。

2【その他】

当社は、2019年10月29日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(1) 配当金の総額	16,215百万円
(2) 1株当たりの金額	80円
(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日	2019年11月22日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月1日

富士通株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 持 永 勇 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 谷 喜 彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 邊 朋 子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 山 浩 平 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士通株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、富士通株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。